

SlackBot プログラムの報告書

2020/4/28

松田 陸斗

1 はじめに

本資料は、B4 新人研修の Ruby による SlackBot プログラムの作成の報告書である。本資料では、SlackBot プログラムの作成に関して、理解できなかった部分、作成できなかった機能、自主的に作成した機能を述べる。

2 課題内容

以下の 2 つの機能をもつ SlackBot プログラムを Ruby で作成する。

(1) 任意の文字列を発言するプログラムの作成

受信した発言の中に”「hello」と言って”という文字列があった場合は、”hello”と発言する

(2) SlackBot プログラムへの機能追加

Slack 以外の Web サービスの API や Webhook を利用した機能を追加する。

3 理解できなかった部分

(1) local から Slack.com にポストリクエストを送るとエラーが出る

4 作成できなかった機能

(1) 時報機能の作成

当初の予定では、cron を動かすことで時報機能は容易に作成できるかと思われた。しかし、Heroku の無料サーバでは 30 分アクセスがないとシャットダウンしてしまうため、工夫が必要である。今回作成する課題は、Web サービスの API や Webhook を利用した機能の追加ということで、時報機能の実装は見送った。

5 自主的に作成した機能

(1) 天気を取得する機能

任意の場所の天気を取得する。場所の名前には、予め登録されてある名前を指定する必要がある

る．トリガーとなる言葉は”(場所) の天気”である．

(2) ニュースを取得する機能

最新のニュースを任意数取得する．検索したい言葉をダブルクォーテーションで囲むと，この言葉に関するニュースを取得する．トリガーとなる言葉は，”ニュース”である．

(3) クイズを出題する機能

コンピュータに関するクイズをランダムに出題する．トリガーとなる言葉は”クイズ”である．

参考文献